

「ヒノキ天然更新現地検討会」を開催

〔愛知所〕 7 月 24 日、愛知県設楽町の段戸国有林内のヒノキ天然更新試験地において、愛知県の林業普及指導員で構成するプロジェクトチーム（森林経営計画）と愛知森林管理事務所の職員によるヒノキ天然更新現地検討会を開催しました。この検討会は、市町村森林計画の作成に当たり必要な天然更新の知識等について、実際に試験地を見学し、見識を深めることを目的に開催しました。

段戸国有林に設定している試験地は、昭和 44 年に伐採、昭和 45 年春に人工植栽を行いました。伐採時に残っていた天然性稚樹が植栽木と区別がつかなくなるほど生長しています。このようなヒノキの天然性稚樹が植栽木を上回る生長は珍しいことから、天然ヒノキ稚樹の更新・育成を目的とした試験地に設定されたものです。

現在の試験地の状況は、この 45 年間で自然淘汰が行われ、競争に負けた劣勢木から枯死し、全体本数が減少しながら優良木が残ってきている状態となっています。その様子は林内がうっぺいし、下層植生はほとんど見当たりません。しかし、落枝や枯木により土壌の移動はみられず、場所によってはニホンジカすら通れないのではないかとというほど立木が密生した場所もあります。

参加者は、人工林とは違う独特の雰囲気をかもし出す天然更新地に感嘆の声を上げ、天然更新に必要な環境条件や、今後の施業方法等について熱心な意見交換が行われました。今後は、関係市町村の担当者も交えた現地検討会も計画されており、フィールドの提供等を通じて市町村森林整備計画の策定支援とともに民国連携による森づくりに取り組んでいくこととしています。



現地検討会の様子